

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677700173
法人名	有限会社 三木
事業所名	グループホーム おおきな木
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占川南3611番地 (電話) 0994-24-2001
自己評価作成日	令和3年11月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は本土最南端の南大隅町にあります。町の中心部に位置し、利便性が高く、地域の方々とも交流のしやすい場所にあります。近隣には、町の社会福祉協議会があり、情報共有のしやすい環境にあり、避難場所としても活用しております。かかりつけ医院まで車で2分と近く、24時間緊急時は訪問診療が可能であります。地域の総合病院である、肝属医師会立病院まで8分程度で緊急搬送が可能であります。ホームの玄関には「おおきな楠木」があり、利用者や地域の方々の憩いの場所となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・玄関前に大きな楠木があり利用者や地域の方が集い憩いの場となっている。
- ・理念を基本に、利用者に寄り添い生活歴や個性を細かく聞き取り、利用者を中心に支援のあり方を話し合い、尊厳を大切にしている。利用者が生きがいを見つけ、感動できる事を大切にして日常の支援に心がけている。
- ・利用者へ贈り物が届き電話の取次ぎをしたり、コロナ禍で家族からの電話も多いので、その都度対応をしている。
- ・玄関の鍵は昼間はしていないので、外出希望の利用者には寄り添い散歩に切り替え自由な暮らしを支援している。
- ・コロナ禍で玄関で短時間の窓越し面会や数名の家族とリモート面会を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念をもとに、職員全員で介護方針や職員の心構えを基本として実施している。	理念はホールと玄関に掲示している。朝礼時は唱和して確認をしている。勉強会を兼ねた職員会議やミーティングでも確認し振り返り、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍であり、外部との交流は禁止されているので、未実施である。	コロナの為、外部との交流や地域行事やボランティア受け入れは自粛している。敷地内を散歩したり個別にドライブして地域の知り合いに挨拶や車中から話したりしている。毎日の有線放できている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ禍であり、小中校生の福祉体験学習の受け入れができていない状況。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり、運営推進会議は書面にて実施している。	コロナ感染防止の為、会議は定期的に書面で実施し郵送している。委員の意見は施設長に届けられ、管理者に報告がある。役場には窓口で訪問したり、電話で報告をしてアドバイスをもらったりして、議事録を作成し運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>コロナ禍であり、市町村との連携や相談は電話等で連携を取るようにしている。</p>	<p>コロナ感染防止の為に電話での状況報告や相談を行い、意見や提案を得て、必要時には窓口に出かけている。研修は自粛している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束等の適正化のための対策をする委員会を3か月に1回実施しており、対応が適切であるかの評価に取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催し、内部研修は年2回実施している。外出希望の利用者には職員が寄り添い散歩に切り替えている。拘束のない自由な暮らしを支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止のための勉強会を年に2回以上実施している。処遇会議等で意見交換や話し合いをすることで虐待防止の徹底につなげている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍であり、外部研修等が行われる機会が減少している。管理者が中心となり、職員研修を実施して理解する努力をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に施設生活での不安のないように十分に説明しているが、ご利用者やご家族からの不安や疑問点がある際は、その都度説明を行い納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月、施設からご家族あてに近況報告書を送付しお知らせしている。ご家族からは、コロナ禍のため、電話等でご意見やご要望を伺っている。	利用者から贈物のお礼の電話がしたい等の要望を聞き、支援している。家族には行事写真を入れて、近況報告を送付したり、面会時に要望を聞いている。リモート面会もしている。要望でオムツ購入を業者を通して効率よく購入し、喜ばれている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	コロナ禍のため、全員での職員会議を実施するのは難しいため、月1回の業務推進会議を実施し、決定事項を処遇会議や朝礼時に報告し、運営に反映させている。	コロナ禍の為、職員会議は全員集まれない為、月1回業務推進会議を持ち、検討事項をミーティングや朝礼の申し送り時に報告し、意見を聴いたりして実施に繋げている。勉強会は時期を考慮し検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	不定期であるが、面談を開催しており、それぞれの職員の要望を話す場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ禍のため、代表者が職員会議を開催することは無いが、月1回の業務推進会議で意見を聞いたり、管理者とは密に連絡を取り合い、ケアの実際を把握している。外部研修はコロナ禍のため未実施。管理者にて施設内での勉強会を開催している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍のため、交流する機会を作ることができていない為、電話等で連絡を取り合い、サービスの質の向上を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に慣れて頂けるように声掛け、見守りを実施している。また、随時要望などに耳を傾け、スタッフ間で連携を取り対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みを受けてから入居されるまで、少なくとも3回程の面談を行い、不明な点等について対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居してどのように過ごしたいのかを的確に理解し、提供できるサービスについての説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が自然に過ごすことのできる環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告をご家族へ送付している。必要に応じて、電話での連絡を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり、知人や友人との直接的な面会は難しい状況。窓越しやオンラインでの面会を実施している。	面会は窓越しやリモートで行っている。受診時に知人に会って挨拶したり、オンラインでの取り組みもしている。電話の取次ぎなどでコロナ禍の中でも馴染みの関係継続を支援し努力している。3ヶ月毎に理美容師の来訪がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調の悪くないときは、ホールで過ごしていただくようにしている。食事前は嚥下体操やレクリエーションなどに取り組み、楽しみを持って生活されている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、ご家族と退所後の生活についても連絡を取り、励ましや相談に応じて解決できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、ご利用者と関わる中で、望む暮らしの把握ができるように努めている。ご利用者の意向や変化をスタッフ間で共有するように努めている。	利用者との日常のかかわりの中で言動や行動の中から把握し、ケース記録や申し送りを基に情報を共有し、生活歴を知ることが大切だと本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りや生活歴などから、本人の生活を理解するように努めている。また、出来る限り本人のリズムに合わせて支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる事を大切にし、出来ない事は支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	処遇会議を開催して、現状の状況を話し合い、より良いサービスが提供できるように介護計画を作成している。	本人や家族から話を聞き、処遇会議での情報やかかりつけ医の意見を基に、現状に即した本人本位の計画を作成している。モニタリングは6ヶ月毎に、見直しは必要時に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌を記録して、職員間で情報を共有している。申し送りも活用し、状態が変化したら介護計画の変更を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者のニーズに対応するため、職員間で連携を取り体制づくりに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族、近隣住民の協力をもらいながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の診察をうけ、ご家族とも連携を取りながら適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望のかかりつけ医である。コロナ禍の中なので受診は家族に了解をもらって、職員が同行している。専門医の受診もしている。協力医療機関からの24時間医療連携体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>申し送り等で日々の情報を共有し、ご利用者の状態に応じて、病院受診ができる体制を取っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時はスタッフが付き添いを行い、状態の説明を行っている。また、入院時情報提供シートを作成し、ファックスをするようにしている。入院時の様子は定期的に電話にて確認している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>不定期ではあるが、看取りケアについての勉強会を開催している。管理者がご家族との窓口にあり、要望を把握しスタッフと連携をとっている。</p>	<p>契約時に重度化や終末期における方針を説明している。状況変化等で段階的に本人や家族と医師と管理者が話し合い、希望する方向性を聞き支援している。希望があれば看取りの支援にもチームを組んで取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急時の初期対応については、定期的に勉強会を開催していく必要がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>コロナ渦であり、大規模な訓練は開催出来ていないが、施設内での自主訓練は実施している。</p>	<p>防災訓練計画書を基に、消防署立会いで年1回、自主訓練を年1実施してきたが、コロナ感染防止の為に、施設内の自主訓練のみ行った。地域住民の参加は今回はない。海が近いので津波の訓練も検討し高台に避難するようにしている。備蓄は1週間位備えている。水・米・羊かん・レトルト食品等を揃え、ガスコンロ等も用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう言動に注意し接している。	個別に生活歴など情報収集し、日常の会話や表情を観察し声掛けするようにしている。排泄、入浴、入室等での言葉かけに注意し、人格の尊重とプライバシーを損ねないように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいように、分かりやすい表現で尋ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調の変化に応じて、一人一人のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴や病院受診時など、本人の希望する衣類を選んでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや下ごしらえ等、可能なご利用者へはお願いし、楽しく食事ができるように支援している。	専任の調理員が複数いて、楽しい行事食や季節の旬の材料を使い、食事を作っている。調理の準備や台拭きなどを利用者と一緒にしている。職員も声かけして食事が楽しく食べられる環境作りをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜などをバランスよく摂ることができる献立を作成し、汁物の減塩などに取り組んでいる。また、水分や食事摂取量を管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアが確実に実施できるように、声掛け見守り、解除を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時での排泄の促しや確認を行い、出来る限りトイレでの排泄ができるように、便座に座ってもらう機会を作っている。	排泄記録があり、排泄パターンに応じてトイレへの誘導をしてトイレでの排泄を基本にしている。オムツの量も減少している。排泄用品について、業者が直接、家族と取引し、家族からも感謝されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を工夫し、水分を多く摂ってもらうなどしている。主治医の指示のもと、排泄のコントロールを実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>週3回、決められた日に入浴を行っている。一人一人の身体機能の応じた入浴方法（シャワー浴、浴槽浴など）気持ちよ々と感じられる環境を提供している。</p>	<p>入浴は体調や希望を聞きながら週3回午前中に行っている。希望があれば毎日入浴が可能である。入浴を拒否する利用者がいても無理強いはしないように時間や日にちを変えたりしている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の体調や習慣に応じて、休息できる環境や場面を準備している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>ご利用者の内服薬などの情報は、個々のケース記録にて管理しており、常に確認ができる状況にある。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>誕生会時は手作りケーキやパースデイソング、踊りなどでお祝いをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ渦であり、外出ができていない。天気の良い日は施設屋外で日光浴や周辺お散歩を行っている。</p>	<p>コロナ予防の為、外出は自粛している。天気の良い日は施設前の大きな木の下で日光浴や周辺を散歩している。少人数でドライブして車の中から季節を感じてもらっている。コロナ終息後、楽しみになるような外出計画を検討している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現金は施設職員にて管理している。本人の希望時は職員が買い物を行っている。(コロナ渦であるため)</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>贈り物などが届いたときは、電話や手紙にて気持ちを伝える場面を作っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールは光が入る設計になっている。施設内に数か所、季節の花を飾るなどしており、室内でも季節を感じることができているように務めている。</p>	<p>ホールは広く高く採光が入り明るく、換気や湿度にも配慮している。ウッドデッキもあり、畳の間もある。コロナ対策でウイルス除菌の噴霧器を使って除菌してある。ソファでゆっくりできる。壁には季節の飾りが貼られて、楽しい雰囲気である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールに2か所、ソファを設置しており、一人で横になったりできる環境にある。スタッフが介入することで、孤独を感じさせないように努めている。(間に入り会話)</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に家族の写真などを持ってきていただき、本人にとって心地よい環境づくりに努めている。</p>	<p>エアコン、ベッド、タンスが設置され、一部に洗面台もある。好みの寝具や家族写真、遺影や使い慣れたものが持ち込まれている。新聞を購読したり、朝夕お茶を遺影に備えたりして、安心できる部屋になっており、自分らしく暮らしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご利用者の状態に応じて、車イスや歩行器、手すりを使用している。トイレなど、分かりやすく表示できている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない